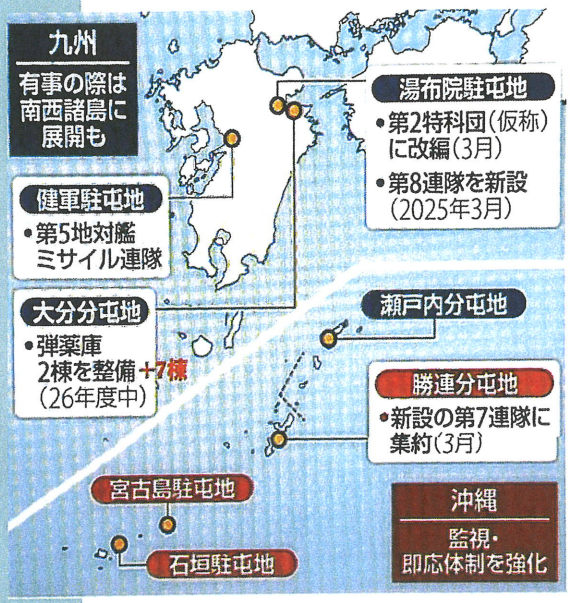
大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会　第３回総会記念講演

ミサイル攻撃基地と化す 琉球列島－九州



■ 2025年8月24日（日）
午後3時～5時

■ ホルトホール3F・大会議室

講師　小西誠 氏

【講師紹介】
軍事ジャーナリト・社会批評社代表。著書に、『自衛隊の南西シフト―戦慄の対中国・日米共同作戦の実態』『要塞化する琉球弧』（以上、社会批評社）、『反戦自衛官』（社会批評社・復刻版）その他軍事関係書多数。1949年、宮崎県生まれ。航空自衛隊生徒隊第10期生。反戦自衛官として著名。2004年から「自衛官人権ホットライン」を主宰し事務局長。

九州南端から台湾のあいだの琉球列島では、10年前から続々とミサイル基地が作られ、また、九州では大分弾薬支処（敷戸弾薬庫）に２年前から長射程ミサイル貯蔵可能な大型弾薬庫９棟の建設計画が開始され、本年末にもその最初のＡ棟が完成します。湯布院にはミサイル連隊や九州沖縄のミサイル部隊の総司令部が設置され、中国を狙う長射程ミサイルが大分や湯布院、熊本などに先行配備されるといわれています。佐賀ではオスプレイ基地建設が強行され、福岡の築城基地や宮崎の新田原基地の米軍基地化にむけた動きが進み、各地で民間空港や港湾の軍事利用計画が進められています。

本年３月末に来日した米国のヘグセス国防長官は、「日本は西太平洋で最前線にたつ」と表明し、自衛隊には統合作戦司令部が置かれ、米軍と自衛隊の共同作戦体制が更に強化されています。トランプ大統領は、GDPの5%という途方もない軍事費をNATO諸国やアジア諸国に要求しています。

「台湾有事」をあおる日本政府の戦争準備は、かえって東アジアに甚大な被害を与える危険を感じざるをえません。また重い軍事費負担は人々の生活を破壊します。大分は1979年以来武漢市などと平和友好活動を続けてきました。現在の危険な動きを知り、これを平和の方向に変えていくために共に学びましょう。

（写真は、2025年3月21日、大分敷戸弾薬庫正門。防衛省に対して、九州先行配備反対の申し入れ）

※なお、当日午後1時30分から2時45分までは、大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会の第３回総会を行います。

大分敷戸ミサイル問題を考える市民の会
（連絡先 080-1547-1323 気賀沢）